



9月16日



9月20日



9月23日



9月26日（最終散布）



9月27日（初回採取）



9月29日



10月3日



10月6日



10月10日

平成28年度 農薬登録における作物グループ化検討試験明細書

(試験期間 28年 7月 ~ 28年8月)

1. 被験物質

(1) 一般名・剤型

処理区A

- ①トリフミン(トリフルミゾール)水和剤 ②ヨネポン(ノニルフェノールスルホン酸銅) 水和剤
③ベンレート (ペノミル) 水和剤 ④サンヨール (DBEDC) ⑤アリエッティ (ホセチル) 水和剤

処理区B

- ⑥マラソン(マラソン)乳剤 ⑦コロマイト(ミルベメクテン)乳剤
⑧ポリオキシシンAL(ポリオキシシン複合体)水溶剤
⑨パンチョTF(シフルフェナミド、トリフルミゾール)顆粒水和剤
⑩アグリメック(アバメクテン)

処理区C

- ⑪カスミンボルドー(カスガマイシン、塩基性塩化銅)
⑫アドマイヤー(イミダクロプリド)フロアブル

処理区D

- ⑬ドクリン(8-ヒドロキシキノリン銅))フロアブル

(2) 有効成分名及び成分含有率

- ①トリフルミゾール30.0% ②ノニルフェノールスルホン酸銅40.0%
③ペノミル 50.0% ④DBEDC20.0% ⑤ホセチル 80.0%
⑥マラソン 50.0% ⑦ミルベメクテン1.0% ⑧ポリオキシシン複合体 50.0%
⑨シフルフェナミド3.4% ⑩アバメクテン1.8%
⑪カスガマイシン5.7% ⑫イミダクロプリド 20.0%
⑬8-ヒドロキシキノリン銅 35.0%

2. 農作物名

メロン

品種名

アールスメロン夏Ⅲ

3. 試験実施機関名

一般社団法人日本植物防疫協会 宮崎試験場

試験圃場所在地

宮崎県宮崎市佐土原町下那珂11913 施設

4. 試験責任者氏名

森田恭充、井園佳文、柑本俊樹、日高正浩、舟木勇樹、福元義人、
和田倉誠也、布留川拓也

5. 土性

砂土・砂壤土・壤土・植壤土・埴土 (○を付す)

減水深

— cm/日

6. 過去1年間に作付けした作物および使用した農薬 (別紙としても構いません)

散布開始日から1年前に使用した農薬 6頁に記載。

7. 栽培概要

播種期、移植期、施肥の種類・量・時期、樹齢、栽植密度(畝間・株間)・株数(/10a)、水管理等
被覆資材(茶は寒れい紗番号)。いちご・おうとう等の被覆時期、茶の寒れい紗・ビニール栽培の被覆時期を記載する。

露地・施設の別

施設

有袋・無袋の別

無袋

播種:平成28年5月6日 定植:5月27日

施肥:5月13日 有機配合888号(8-8-8)88kg/10a、CDU複合燐加安特S222(12-12-12)58kg/10a

交配開始(みつばちによる):ハウス1:6月15日~6月24日、ハウス6:6月15日~6月23日

摘果:ハウス1:7月1日、7月5日、ハウス6:6月24日、6月28日、摘心:ハウス1:6月27日、

ハウス6:6月24日 収穫期間(適期):8月上旬~8月中旬

8. 生育ステージ

試験計画書に指定された生育ステージ

—

を記入して下さい。

9. 被験物質以外に使用した農薬 (別紙としても構いません)

試験開始後に使用した農薬 7頁に記載

1.0. 試験区

(1) 試験区の面積および(株)数 ハウス1 無処理区E:43.2㎡(18.0m×1.2m×2畝:90株)、

ハウス6 処理区A、B、C、D:26.9㎡(11.2m×1.2m×2畝:56株)

(2) 施設の場合、面積・容積・高さ

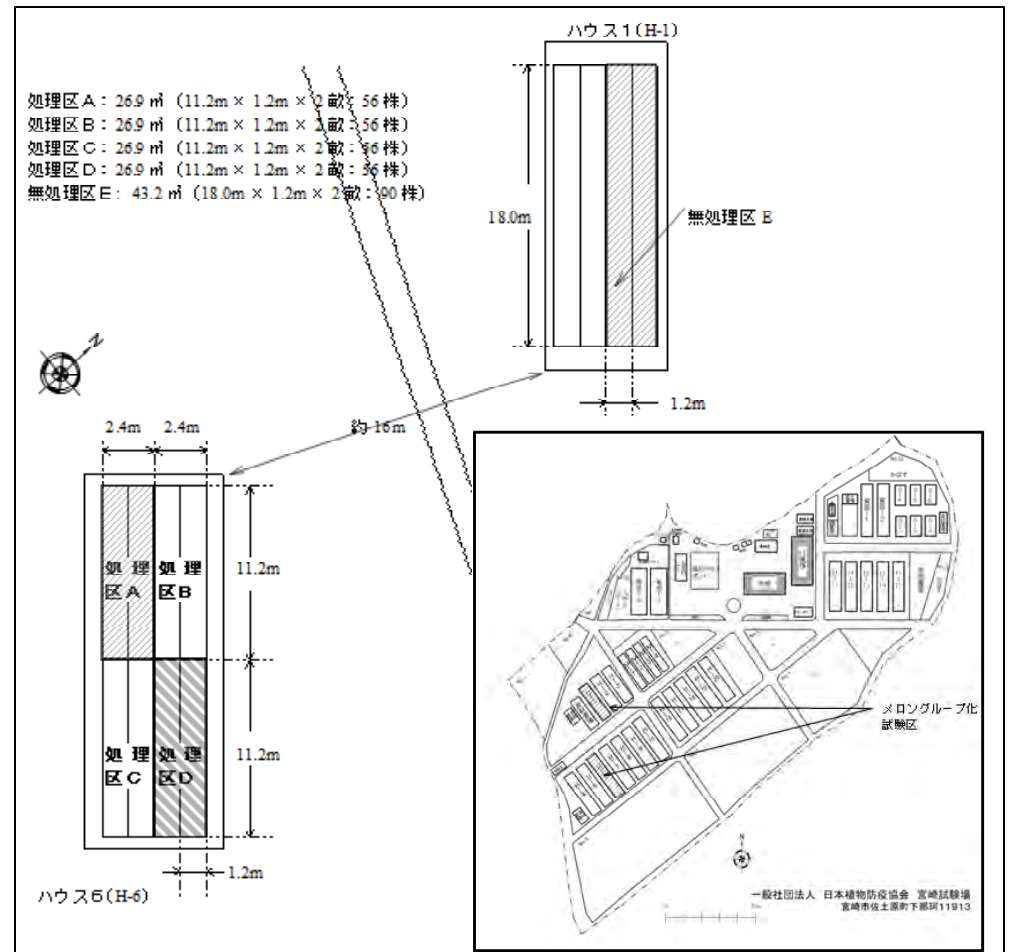
ハウス1:120㎡・320㎡・3.3m、ハウス6:150㎡・400㎡・3.3m

(3) 試験区の配置図(試験区全体および周辺農地等の状況がわかるように記入して下さい。記入できない場合は別紙としても構いません)

ア) 下口内の点と点を結び、処理区および無処理区の配置関係を作図して下さい。果樹1樹は点を○で囲んで表し、必要に応じて枝の伸長方向を記載して下さい。

イ) 試験区間および試験区と無処理区間の距離を記入して下さい。

ウ) 圃場の畝方向、方位および圃場の傾斜方向を記入して下さい。水田は給水口および排水口を記入して下さい。



1 1. 処理方法 (下のA～D欄へは該当する処理日に被験物質の番号を記載する)

区 分 処理月日	処理区 A	処理区 B	処理区 C	処理区 D	無 処 理 区 E	被 験 物 質			処 理 量		処 理 時 の 生 育 ス テ ー ジ	処理方法 (概略)
						一般名 (農薬名)	希釈倍数	農薬量/水量	1 0 aあたり	試験区当り (散布量/面積)		
7 月 1 日				⑬*		処理区 A ①トリフルミゾール(トリフミン)水和剤	3000倍	2. 27g/6. 8L	253 $\frac{g}{L}$	6. 8L/26. 9m ²	生育期 (ネット発生期)	茎葉散布
7 月 4 日			⑪*			②/ニルフェノールスルホン酸銅(ヨネホ [®] ン)水和剤	500倍	2. 43g/7. 3L	253 $\frac{g}{L}$	6. 8L/26. 9m ²	生育期 (果実肥大)	茎葉散布
7 月 6 日	①*	⑧*				③ヘノミル(ヘンシレート)水和剤	2000倍	3. 65g/7. 3L	各253 $\frac{g}{L}$	処理区A, B : 6. 8L/26. 9m ²	生育期 (果実肥大)	茎葉散布
7 月 7 日				⑬*		④DBEDC(サンヨール)	500倍	14. 6ml/7. 3L	253 $\frac{g}{L}$	6. 8L/26. 9m ²	生育期 (果実肥大)	茎葉散布
7 月 7 日				⑬*		⑤ホセチル(アリエッティ)水和剤	800倍	9. 13g/7. 3L	253 $\frac{g}{L}$	6. 8L/26. 9m ²	生育期 (果実肥大)	茎葉散布
7 月 1 1 日			⑪			処理区 B ⑥マラソン(マラソン)乳剤	1000倍	7. 3ml/7. 3L	271 $\frac{g}{L}$	7. 3L/26. 9m ²	生育期 (果実肥大)	茎葉散布
7 月 1 3 日	①②④	⑧		⑬		⑦ミルヘメクチン(コロマイト)乳剤	1000倍	7. 3ml/7. 3L	各271 $\frac{g}{L}$	処理区A, B, D : 7. 3L/26. 9m ²	生育期 (果実肥大)	茎葉散布
7 月 1 8 日			⑪⑫			⑧ホリオキシ複合体(ホリオキシAL) 水和剤	1000倍	6. 80g/6. 8L	271 $\frac{g}{L}$	7. 3L/26. 9m ²	生育期 (ネット完成)	茎葉散布
7 月 1 9 日				⑬		⑨シフルフェナミト [®] (ハ [®] ンチョTF) 顆粒水和剤	1360倍	5. 37g/7. 3L	271 $\frac{g}{L}$	7. 3L/26. 9m ²	生育期 (ネット完成)	茎葉散布
7 月 2 0 日	①②③④ ⑤	⑥⑧⑩				⑩アハメクチン(ア [®] クリメック)	500倍	14. 6ml/7. 3L	各271 $\frac{g}{L}$	処理区A, B : 7. 3L/26. 9m ²	生育期 (ネット完成)	茎葉散布
7 月 2 5 日			⑪⑫	⑬		処理区 C ⑪カス [®] マイシン(カスミンホ [®] ルト [®] ー)	1000倍	6. 80g/6. 8L	各271 $\frac{g}{L}$	処理区C, D : 7. 3L/26. 9m ²	生育期 (肥大完了)	茎葉散布
7 月 2 7 日	①②③④ ⑤	⑥⑦⑧⑨ ⑩				⑫イミタ [®] クロブ [®] リト [®] (アト [®] マイヤー)フロア [®] ブル	2000倍	7. 30g/7. 3L	271 $\frac{g}{L}$	7. 3L/26. 9m ²	生育期 (糖度上昇)	茎葉散布
8 月 1 日			⑪⑫			⑬有機銅(ト [®] キリン)フロア [®] ブル	500倍	3. 65ml/7. 3L	各271 $\frac{g}{L}$	処理区A, B : 7. 3L/26. 9m ²	収穫期 (収穫初期)	茎葉散布
8 月 3 日	①②③④ ⑤	⑥⑦⑧⑨ ⑩						13. 6ml/6. 8L 14. 6ml/7. 3L	各271 $\frac{g}{L}$	処理区A, B : 7. 3L/26. 9m ²		茎葉散布

*: 253L/10a それ以外の処理は271L/10a

区 分 処理月日	処理方法の詳細、 処理時の環境条件等	処理時刻、処理時の天候を含む処理日の天気概況 特に降雨の有無と降雨時間、処理時および処理直後の風が試験に及ぼした影響について記入する	
		処 理 時 刻	
H28年7月 1日	処理時の使用器具（機械）、樹幹塗布、湛水散布時の水管理、 土壌混和時の深度・土壌水分、種子消毒時の水温・液比等 散布機：背負式動力噴霧機（バッテリー式） 株式会社 丸山製作所 MSB1500Li ノズル：マルヤマ狭角コーンノズル 散布方法：使用するノズルの時間あたりの吐出量を計測し、試験区の面積から計画書に指定された散布量となるよう、散布量と散布時間を決めた。 試験区の56株に対して両側から一定時間で散布することにより、計画書の散布量と散布の均一性を担保した。	処理区D 8:45～8:53	散布時の天候および風：晴れ、風、降雨の影響は無し（施設のため）。
7月 4日		処理区C 9:05～ 9:13	散布時の天候および風：晴れ、風、降雨の影響は無し（施設のため）。
7月 6日		処理区A 8:55～ 9:03	散布時の天候および風：晴れ、風、降雨の影響は無し（施設のため）。
		処理区B 9:17～ 9:25	
7月 7日		処理区D 8:40～ 8:48	散布時の天候および風：晴れ、風、降雨の影響は無し（施設のため）。
7月11日		処理区C 11:42～ 11:53	散布時の天候および風：雨、風、降雨の影響は無し（施設のため）。
7月13日		処理区D 10:00～10:12	散布時の天候および風：曇り、風、降雨の影響は無し（施設のため）。
		処理区B 10:30～10:42	
		処理区A 11:05～11:17	散布時の天候および風：雨、風、降雨の影響は無し（施設のため）。
7月18日		処理区C 9:50～ 9:59	散布時の天候および風：晴れ、風、降雨の影響は無し（施設のため）。
7月19日		処理区D 9:08～ 9:17	散布時の天候および風：晴れ、風、降雨の影響は無し（施設のため）。
7月20日		処理区A 9:26～ 9:35	散布時の天候および風：晴れ、風、降雨の影響は無し（施設のため）。
		処理区B 10:00～10:09	
7月25日		処理区D 13:30～13:39	散布時の天候および風：曇り（処理C）、晴れ（処理D） 風、降雨の影響は無し（施設のため）。
		処理区C 11:25～11:34	
7月27日		処理区A 10:40～10:54	散布時の天候および風：晴れ、風、降雨の影響は無し（施設のため）。
		処理区B 11:05～11:14	
8月 1日		処理区C 9:40～ 9:49	散布時の天候および風：晴れ、風、降雨の影響は無し（施設のため）。
8月 3日		処理区A 15:45～15:54	散布時の天候および風：曇り、無風。降雨無し。
		処理区B 16:25～16:34	

(1) 展着剤 使用せず 使用した区番号 展着剤名 濃度または量

(2) 備考 散布日における降雨の状況 施設のためなし。

区 分 採取月日	A 区 試料番号	B 区 試料番号	C 区 試料番号	D 区 試料番号	E 区 試料番号	試料採取時刻と天候	試料採取順（区番号順）	試料送付量	試料送付月日
H28. 8月 4日	A－1	B－1	C－1	D－1	E (無処理区)	E：8:55～9:00 A：9:35～9:40 B：9:43～9:47 C：9:50～9:54 D：9:55～10:00 晴れ	E→A→B→C→D	E：10個／20.0kg A－1：6個／10.7kg B－1：6個／10.7kg C－1：6個／10.7kg D－1：6個／9.2kg	8月4日
8月 6日	A－2	B－2				A：9:10～9:15 B：9:16～9:22 雨	A→B	A－2：6／11.0kg B－2：6個／9.7kg	8月6日
8月 7日				D－2		D：10:22～10:27 晴れ	D	D－2：6個／9.9kg	8月7日
8月 8日			C－2			C：8:42～8:47 曇り	C	C－2：6個／10.8kg	8月8日
8月10日	A－3	B－3				A：8:37～8:43 B：8:46～8:52 晴れ	A→B	A－3：6個／11.0kg B－3／10.7kg	8月10日
8月11日				D－3		D：9:35～9:40 晴れ	D	D－3：6個／9.9kg	8月11日
8月15日			C－3			C：8:32～8:37 晴れ	C	C－3：6個／11.0kg	8月15日

区 分 採取月日	送付試料について（該当項目に○を付し、必要に応じてその原因を記載する）
H28年8月4日	1. 試料の大きさは（やや大きい○）やや小さい 大きさにバラツキがある）2. 熟期は（やや早い○）通常 やや過熟） 3. その他（ ） 4. 原因 無処理区Eの試料のみやや大きい。無処理区Eのハウスは土壌水分の影響を受け、果実が肥大した。
8月6日	1. 試料の大きさは（やや大きい○）やや小さい 大きさにバラツキがある）2. 熟期は（やや早い○）通常 やや過熟） 3. その他（ ） 4. 原因
8月7日	1. 試料の大きさは（やや大きい○）やや小さい 大きさにバラツキがある）2. 熟期は（やや早い○）通常 やや過熟） 3. その他（ ） 4. 原因
8月8日	1. 試料の大きさは（やや大きい○）やや小さい 大きさにバラツキがある）2. 熟期は（やや早い○）通常 やや過熟） 3. その他（ ） 4. 原因
8月10日	1. 試料の大きさは（やや大きい○）やや小さい 大きさにバラツキがある）2. 熟期は（やや早い○）通常 やや過熟） 3. その他（ ） 4. 原因
8月11日	1. 試料の大きさは（やや大きい○）やや小さい 大きさにバラツキがある）2. 熟期は（やや早い○）通常 やや過熟） 3. その他（ ） 4. 原因
8月15日	1. 試料の大きさは（やや大きい○）やや小さい 大きさにバラツキがある）2. 熟期は（やや早い○）通常 やや過熟） 3. その他（ ） 4. 原因

(1) 試料採取方法

使用した器具（機械）、採取方法の詳細、
採取後乾燥等のための輸送方法を記載

各区、試験区境界部の株を除いた全体から、大きさの揃った試料を鉢を用いて採取し、その都度、プラスチック製のカゴに入れた。採取時には、清浄な手袋を装着して作業を行った。
なお、手袋および鉢は、試験区毎に交換した。

(2) 採取後の調製・梱包方法

試料採取後の加工、水洗い、根等の除去、風乾、乾燥、
脱殻・粉すり等の方法。雨後の試料調製方法および試料の梱包方法を記載

採取した試料は、調製は行わず、1個ずつ未使用の包装紙とエアクッション材で包んだ後、ポリエチレンの袋に入れた。それら6個を緩衝材（包装紙とエアクッション材）を敷いた段ボール箱に入れ、
動かぬように包装紙を隙間に詰め、梱包した。なお無処理区は1箱5個ずつ2箱に詰めた。また段ボール箱の内側には試験区ラベル、外側に梱包シールを貼り付けた。

(3) 試料送付先

分析機関： 株式会社 化学分析コンサルタント 望月 隆広

(4) 試料の輸送方法

到着日指定、温度指定、 各試料は、ヤマト運輸の冷蔵便で、到着を送付翌々日の午前中に指定して送付した。
輸送会社等

(5) 備考

試験期間中の気象

観測地点：宮崎県宮崎市佐土原町下那珂11913 ハウス1内

(平成28年)

月	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
7	平均気温(℃)	28.3	29.9	31.3	32.7	30.3	32.1	30.5	24.1	27.7	26.4	27.0	30.9	28.3	28.8	29.7	29.1	32.6	32.1	31.6	30.2	32.7	31.7	32.6	29.2	31.1	31.5	30.5	31.2	31.6	32.0	32.6
	最高気温(℃)	37.0	40.4	40.5	44.3	38.5	45.3	42.4	25.6	37.0	36.1	33.6	41.0	34.9	41.2	40.6	38.1	45.0	43.9	41.6	43.4	44.7	45.0	44.0	43.0	42.1	42.5	41.1	45.1	41.9	41.9	44.3
	最低気温(℃)	21.4	23.4	25.2	24.4	24.2	22.9	22.7	23.1	23.4	24.6	24.9	25.0	25.5	23.7	20.9	23.9	24.9	22.4	24.2	24.6	23.9	24.2	24.2	24.4	23.8	24.6	23.7	24.5	23.5	24.0	24.3
8	平均気温(℃)	32.8	32.5	30.3	30.3	30.9	29.8	31.4	31.8	31.0	31.8	33.8	33.6	33.9	33.8	33.8																
	最高気温(℃)	47.2	46.4	42.7	42.3	42.5	39.6	46.5	45.8	42.5	42.2	46.9	45.9	46.9	47.1	46.5																
	最低気温(℃)	23.6	24.7	24.3	24.3	25.0	25.1	25.3	24.4	25.9	24.7	25.0	25.2	25.3	25.6	25.7																

観測機器：TandD社製 Thermo Recorder おんどとりTR-71Ui

データ集計ソフト：気象表自動作成ソフト「てんきろくVer.2」

1日の観測は1:00～翌日0:00迄とする日界0時とした。

気温は1:00～翌日0:00迄の1時間毎の記録値により平均値を求めた。

また、この記録値より最高、最低を抽出した（最高、最低気温）。

6. 過去1年間に作付けした作物および使用した農薬

散布開始日から1年前に使用した農薬

無処理区E (ハウス1)

なす

’15/6/19, 7/3, 10, 23 : アファーム乳剤2000倍 サンマイトフロアブル1500倍 ダコニール1000 1000倍、’15/6/23 : アファーム乳剤2000倍 ダコニール1000 1000倍、’15/8/1 : プレオフロアブル1000倍
ダコニール1000 1000倍、’15/8/11 : プレオフロアブル1000倍 粘着くん液剤100倍 ’15/8/26 : トランスフォームフロアブル1000倍、’15/9/3 : 粘着くん液剤100倍

無栽培

’15/9/18 : クロピクテープ110m/100㎡

ミニトマト

’15/10/10 : サンマイトフロアブル1500倍 ダコニール1000 1000倍、’15/11/20 : アファーム乳剤 2000倍 ダコニール1000 1000倍、’15/12/26 : アファーム乳剤 2000倍 スピノエース顆粒水和剤 5000倍
ダコニール1000 1000倍、’16/1/5 : サンマイトフロアブル 1000倍 ダコニール1000 1000倍、’16/1/22 : プレオフロアブル 1000倍

すいか

’16/4/28 : アファーム乳剤 2000倍 ダントツ水溶剤 2000倍 ベルクートフロアブル 1000倍

メロン (試験に使用した作物)

種苗会社による処理 : 塩基性塩化銅種子浸漬

’16/5/23 : ダコニール1000 1000倍 ダントツ水溶剤2000倍 ランマンフロアブル2000倍 (育苗期間中)、

’16/5/28 : ダコニール1000 700倍 ジマンダイセンフロアブル500倍 モレスタン水和剤2000倍 ’16/6/3 : ランマンフロアブル 1000倍 ロブラール水和剤 1000倍 アディオン乳剤 3000倍、

’16/6/17 : ダコニール1000 1000倍 ロブラール水和剤1000倍 ウララDF2000倍、’16/6/22 : ダコニール1000 1000倍

処理区A、B、C、D (ハウス6)

メロン

’15/7/02 : コルト顆粒水和剤4000倍 プレオフロアブル1000倍 ベルクートフロアブル1000倍 ジマンダイセン水和剤5倍塗布、’15/7/10 : スタークル顆粒水溶剤2000倍 ベルクート水和剤1000倍

’15/7/08, 13 : ジマンダイセン水和剤5倍塗布、’15/7/27 : ベルクートフロアブル1000倍、スタークル顆粒水溶剤2000倍 プレオフロアブル1000倍、’15/7/14, 21, 28 : フェスティバルC水和剤1000倍

ダニトロンフロアブル1000倍 アフェットフロアブル2000倍、’15/6/30, 7/7, 14, 21, 28 : スカウトフロアブル2000倍 アグロスリン乳剤1000倍、’15/7/28 : マイトコーネフロアブル1000倍

’15/7/21, 28 : アファーム乳剤1000倍、’15/7/14, 21, 28 : トップジンM水和剤1500倍 アクタラ顆粒水溶剤2000倍、’15/7/21, 28 : サンマイトフロアブル1000倍、’15/6/30, 7/7, 14, 21, 28 : ダコニール1000 700倍、

’15/6/10, 15, 20, 25, 30, 7/5, 10, 15, 21, 28 : モレスタン水和剤2000倍、’15/7/21, 28 : テデオン水和剤500倍、’15/6/30, 7/7, 14, 21 : ダイアジノン乳剤700倍、

’15/6/23, 30, 7/7, 14, 21 : オーソサイド水和剤80 400倍

無栽培

’15/8/26 : クロピクテープ110m/100㎡

すいか

’15/9/30 : ダコニール1000 1000倍 ジマンダイセン水和剤600倍、’15/9/30 : ダントツ水溶剤2000倍、’15/10/6 : ダコニール1000 1000倍 ジマンダイセン水和剤600倍 スタークル顆粒水溶剤2000倍、

’15/10/06 : プレオフロアブル1000倍、’15/10/13 : ダコニール1000 1000倍 ジマンダイセン水和剤600倍 アファーム乳剤1000倍、’15/10/22 : ダコニール1000 1000倍 ジマンダイセン水和剤600倍

スタークル顆粒水溶剤2000倍 プレオフロアブル1000倍、’15/10/28 : ダコニール1000 1000倍 ジマンダイセン水和剤600倍 モスピラン顆粒水溶剤4000倍、’15/11/5 : アファーム乳剤2000倍、

ダントツ水溶剤2000倍 ベルクートフロアブル1000倍、’15/11/09 : テルスタージェット48g/400㎡、’15/11/13 : ダコニールくん煙剤30g/100㎡、’15/11/20 : アファーム乳剤2000倍

スタークル顆粒水溶剤2000倍 トレボン乳剤1000倍 ベルクートフロアブル1000倍、’15/9/25 : DPX-Q8U80 (DKN-2601) 粒剤20kg/10a定植当日全面処理、作条処理土壌混和、

かんしょ

’16/3/18：スタークル顆粒水溶剤2000倍 ダントツ水溶剤2000倍 4000倍 ベストガード水溶剤2000倍 トレボン乳剤1000倍、’16/4/01：ベストガード水溶剤2000倍 モスピラン水溶剤2000倍、
’16/4/06：NC-515乳剤2000倍 3000倍 ダニサラバフロアブル1000倍 マイトコーネフロアブル1000倍

メロン（試験に使用した作物）

種苗会社による処理：塩基性塩化銅種子浸漬

’16/5/23：ダコニール1000 1000倍 ダントツ水溶剤2000倍 ランマンフロアブル2000倍（育苗期間中）、
’16/5/28：ダコニール1000 700倍 ジマンダイセンフロアブル500倍 モレスタン水和剤2000倍 ’16/06/3：ランマンフロアブル 1000倍 ロブラール水和剤 1000倍 アディオン乳剤 3000倍、
’16/6/17：ダコニール1000 1000倍 ロブラール水和剤1000倍 ウララDF2000倍、’16/6/22：ダコニール1000 1000倍

9. 被験物質以外に使用した農薬

試験開始後に使用した農薬

無処理区E（ハウス1）、処理区A、B、C、D（ハウス6）共通

’16/7/8：ダコニール1000 1000倍 スピノエース顆粒水和剤2000倍 プレオフロアブル1000倍、’16/7/11：ロブラール水和剤10倍株元塗布、’16/7/12：アフェットフロアブル2000倍
ジマンダイセンフロアブル500倍 モベントフロアブル2000倍、’16/7/22：ジマンダイセンフロアブル500倍 ロブラール水和剤1000倍 コルト顆粒水和剤4000倍 プレオフロアブル1000倍

(H28グループ化:メロン)

試験場名 一般社団法人 日本植物防疫協会宮崎試験場



平成28年7月1日 処理区D散布時



平成28年7月4日 処理区C散布時



平成28年7月6日 処理区A散布時



平成28年7月6日 処理区B散布時



平成28年7月7日 処理区D散布時



平成28年7月11日 処理区C散布時



平成28年7月13日 処理区A散布時



平成28年7月13日 処理区B散布時



平成28年7月13日 処理区D散布時



平成28年7月18日 処理区C散布時



平成28年7月19日 処理区D散布時



平成28年7月19日 処理区D全体風景



平成28年7月20日 処理区A散布時



平成28年7月20日 処理区A全体風景



平成28年7月20日 処理区B散布時



平成28年7月25日 処理区C散布時



平成28年7月20日 処理区C全景風景



平成28年7月20日 無処理区E



平成28年7月25日 処理区D散布時



平成28年7月27日 処理区A散布時



平成28年7月27日 処理区B散布時



平成28年8月1日 処理区C散布時



平成28年8月3日 処理区A散布時



平成28年8月3日 処理区B散布時



平成28年8月3日 無処理区E (収穫前日)



処理区全景を望む (手前が処理区B,C)

(H28グループ化:メロン)

試験場名 一般社団法人 日本植物防疫協会宮崎試験場



平成28年8月4日処理区A採取 (A-1)



平成28年8月4日処理区B採取 (B-1)



平成28年8月4日処理区C採取 (C-1)



平成28年8月4日処理区D採取 (D-1)



平成28年8月4日無処理E採取 (E)①



平成28年8月4日無処理E採取 (E)②



平成28年8月4日無処理区E梱包風景



平成28年8月6日処理区A採取 (A-2)



平成28年8月6日処理区B採取 (B-2)

(H28グループ化:メロン)

試験場名 一般社団法人 日本植物防疫協会宮崎試験場



平成28年8月7日 処理区D採取 (D-2)



平成28年8月8日 処理区C採取 (C-2)



平成28年8月10日 処理区A採取 (A-3)



平成28年8月10日 処理区B採取 (B-3)



平成28年8月11日 処理区D採取 (D-3)



平成28年8月15日 処理区C採取 (C-3)